

権威についての 復習と補足

試験範囲外

権威はどこから？

- 資本主義的営利企業において権威はどこから生まれるの？
- 上から説（法定説）：クーンツ／オドンネル
 - 権威はより上から生じるものだ。課長の権限は部長から、部長の権限は取締役から、取締役の権限は会社から。会社の権限は？会社法から。じゃあ、会社法の権限は？そりゃ資本主義的なシステムそのもの（クーンツ／オドンネルのイメージでは私有財産制）からだ。
- 下から説（受容説）：バーナード
 - 上の命令を下が受け容れることでこの命令が生きてくるんだよ。権威の範囲（権限）を決めるのは権威に従う側だ。

参考

試験範囲外

権威と意志——サークル活動

- サークル活動で
 - みんな自分の意志を持っている。自分の意志でサークル活動している。
 - みんなで協力し合わなければならないというのわかっている。
 - “お前リーダーやれよ。やーれ、やーれ”
 - Xがリーダーに
 - X：“じゃ、Aさんこれやって、BさんはCさんのことを手伝って。etc”
 - A～N：“俺たちが選んだリーダーだからな、不合理がないかぎりしたがおうぜ”
 - 個々のあれこれを決めるのはXでも、それはA～Nの意志に基づいている。

参考

権威と意志——会社(1)

- 会社では
 - みんな自分の意志を持っている。自分の意志で会社と契約した。
 - みんなで協力し合わなければならないというのわかっている。
 - 上司は会社に押しつけられた。たとえ従業員が選んだとしても、その場合にも上司を任命するのは会社（＝資本）。つまり、会社が権威の根拠。
 - 上位法とかで押しつけられているから会社に従うのではなく、自分自身が会社の一部、会社の手足だから、会社に従う。

権威と意志——会社(2)

- 会社では
 - もちろん、会社に従うということは、労働者が資本主義的なシステム（＝資本主義的な生産関係）を当然なものとなしているということを経験する条件とする。
 - しかし、この資本主義的な生産関係そのものこそは、労働者が、賃労働によって形成したものである。労働者が毎日、賃労働しているからこそ、毎日、資本主義的な生産関係が再生産されるのである。

権威と意志——会社(3)

- 労働者は
 - この労働過程（＝個人的労働過程）で俺はこうするんだという意志を、また
 - この協業（社会的労働過程）で俺はこうするんだという意志を
 - 会社の権威（したがって業務命令）とすりあわせる。
- 資本は
 - 労働者の意志を吸い取って、
 - 個人のやる気（＝意志）として押し付けているのと同時に、
 - 全体の意志（＝権威）として押し付けている。